

# グローバル・プロファイリング報告書：北海道東川町

綿貫 雅一\*

## 【概要】

東川町は、北海道のほぼ中央に位置し、美しい自然環境と豊かな観光資源に恵まれた人口約8,600人の町である。東川町の中心部から旭川市の中心部までは約13km、旭川空港までは約7kmと交通アクセスにも恵まれている。東部は山岳地帯で大規模な森林地域を形成し、北海道最高峰の旭岳を主峰とする日本最大の自然公園「大雪山国立公園」が、町の一部を占めている。大雪山の雪解け水が長い年月を経て、地下水となって麓の町まで運ばれてきているため、東川町は北海道唯一、また全国的でも珍しい上水道が無い町として有名である。また東川町は世界的にも類のない「写真の町」や「写真文化首

都」を宣言しており、写真を通じたまちづくりを積極的に推進している。近年、全国からの移住者などの人口増加により、カフェや雑貨店・ワイナリー・ヴィンヤード・日本酒蔵などが増え、若い世代が観光で訪れるようになっている。東川町は、すべてにおいて本物志向の「東川スタイル」という、独特の文化を持つユニークな町である。外国人も多く国内では珍しいダイバーシティ性の高い町である。「適疎」という基本理念のもと、将来を見据え地域創生の視点に立ち、街づくりを推進している。更に、地域の独特の風土と豊かな地域資源を活かした、革新的な取組みを行っている未来に挑戦する先進的な町である。

## 1. 基本情報

### (1) 地理・気候

東川町は、4市17町2村から構成される北海道上川総合振興局に属する町の一つで、面積は247.30km<sup>2</sup>である<sup>1)</sup>。東は北海道第二の高峰である北鎮岳(2,244m)で上川町と境界を隔て、南には忠別川で美瑛町と東神楽町、北西には岐登牛山(キトウシ山)に沿って旭川市と接している。

図1 東川町の位置



(<https://higashikawa-town.jp/portal/machi/panel/4>)

\* 一般社団法人 日本グローバル・イニシアティブ協会 理事長

1) 北海道上川総合振興局。 <https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/>

町の面積の約70%を森林が占めている。東部は山岳地帯で、大規模な森林地域を形成している。北海道最高峰の「旭岳(2,291m)」を有する日本国内最大の山岳公園「大雪山国立公園(面積2,267.64km<sup>2</sup>)」の区域の一部を構成している<sup>2)</sup>。南西部には忠別川と倉沼川によって形成された扇状地が広がっている。平坦部は水田地帯、東部の山麓は畑地帯であり、土壌は大部分が沖積土壌になっており、表層に礫を含む埴土壌は農地に適している。

東川町の自然・地理的概況は以下の通りである。

- 山：旭岳(2,291m)、熊ヶ岳(2,210m)、当麻岳(2,076m)、安足間岳(2,194m)、比布岳(2,197m)、鋸岳(2,142m)、北鎮岳(2,244m)、中岳(2,113m)、間宮岳(2,185m)、北海岳(2,149m)、江卸山(672m)
- 河川：忠別川、倉沼川、幌倉沼川、ポン倉沼川、サルン倉沼川
- 滝：羽衣の滝、敷島の滝
- 池沼・湖沼：三ノ沼、大沼、小沼、瓢沼、姿見の池、夫婦池(摺鉢池、鏡池)、湯の沼、瓢箪沼、忠別湖(忠別ダム)

ケッペンの気候区分によると、東川町は湿润大陸性気候に属する。標高差が大きく、南部の標高約210mから北部の三本槍岳山頂の

1,917mまで約1,700mの標高差がある。このため、寒暖の差が大きく気温の年較差、日較差が大きい顕著な大陸性気候である。

冬季は寒冷で降雪量が多く、周辺の自治体と同様に特別豪雪地帯に指定されている。冬季には-25℃前後の気温が観測されることが珍しくなく、寒さが厳しい。気象の面では、夏季に降水量が比較的多く、冬季には少ない傾向にあり、年間の降水量は1,500~2,000ミリメートルである。

## (2) 人口・世帯数及び人口推計

東川町の最新の人口動態統計によると、令和5年(2023年)2月末時点で、人口8,589人、また世帯数は4,246世帯である<sup>3)</sup>。

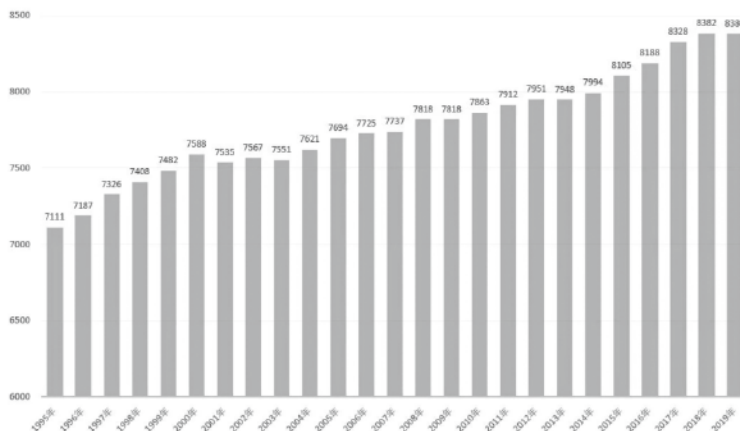
東川町の人口は、昭和25年(1950年)の人口10,754人をピークに、その後、いわゆる高度経済成長期に人口が札幌市や首都圏などの都市部へ流出し、人口が大きく減少した。その後は緩やかな減少を続け、平成5年(1993年)には6,973人にまで減少した。

しかし、1995年(平成7年)から大規模な宅地造成が始まり、旭川市や旭川空港へのアクセスの良さなどから、人口が増加に転じた。平成6年(1994年)度以降、写真の町事業及び各関連施策の実施により、遂に平成26年(2015)には、40年ぶりに人口が8,000人を超えるに至っている。

2) 環境省。https://www.env.go.jp/park/daisetsu/index.html

3) 北海道人口動態及び世帯数調査。令和5年2月末。

図2 東川町の人口の推移（1995 - 2019）



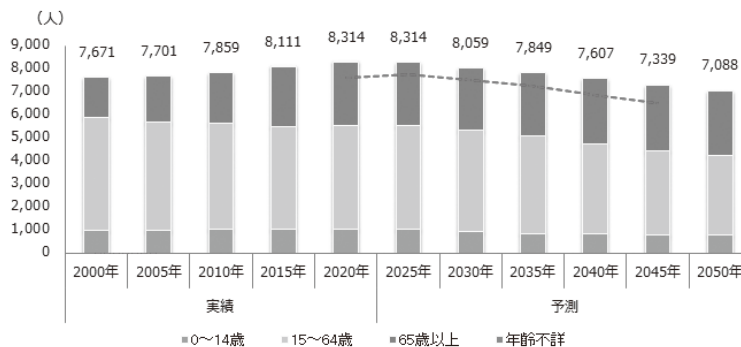
出典：東川町人口動態調査 (<https://higashikawa-town.jp/portal/machi/panel/89>)

2015年と2020年の人口を比較すると、2015年の8,105人から、2020年には8,437人へと4.1%の極めて高い人口増であり、全国でも大変注目される結果である<sup>4)</sup>。また、総務省の住民基本台帳によれば、2022年には北海道で最大の人口増加数211人（増加率2.51%）を記録した<sup>5)</sup>。

東川町の将来の人口推計については、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研

究所「将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を基にした推計は以下の通りである。総務省統計局の国勢調査による令和2年（2020年）の総人口は、8,314人でピークに達し、その後は緩やかに減少するとの予測である。2020年のピーク人口に対して、2040年には8.5%減の7,607人に、2050年には14.7%減少し、7,100人を切る推計である。

図3 東川町の将来人口推計（2000 - 2050）



出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』：令和2（2020）年推計

4) 東川町 町の紹介。 <https://higashikawa-town.jp/portal/machi>

5) 総務省 住民基本台帳 2022年1月版。

東川町でも、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」や日本創生会議による「地域別将来人口推計」を基に、2060年まで独自の推計を行っている。楽観シナリオでは、2050年にピークから7%減、2060年には12.0%の減少と推計している。悲観シナリオでは、人口減少が大きく、2050年にピークから15.2%減、2060年には21.2%の減少予測である<sup>6)</sup>。

### (3) 東川町の革新的取組み

東川町では、全国でも珍しい斬新でユニークな取組を実施しているので、ここで簡潔にその概要を紹介したい。

先ず第一に、東川町の顔となっている「写真の町」の取組みである。昭和60年（1985年）、世界でも例のない「写真の町」を宣言し、更に平成26年（2014年）には、「写真文化首都」宣言を行っている。この取組みの目的は、写真を通してまちの文化や生涯教育の振興を図り、被写体となる美しい町づくりを進め、自然と文化の調和する世界に開かれた町づくりの推進をすることである。写真を媒体に国内外との交流を広げており、毎年夏には国際写真フェスティバルが東川町で開催され、多くの人々が訪れる恒例の一大イベントである。

第二の取組みは、「ひがしかわ株主制度」という先進的な取組みである<sup>7)</sup>。この制度は、東

川町を応援したい人が、町への投資（寄附）によって「株主」となり、まちづくりに参加する制度である。この投資は、自治体への「寄附」に該当するため「ふるさと納税」として住民税など税法上の控除を受けることができるほか、「特別町民」への認定や、「株主証」の発行、更に宿泊優待も受けることができる優遇措置を活用して、地域の活性化や地域資源の活用の促進を目指している。

第三の取組みは、「東川オフィシャルパートナー制度」である。東川町と日本の未来、そして人々のライフスタイルを育むことを目的に、2019年に開始された制度である。東川町とつながりのある企業とパートナーシップ関係を構築し、地方や日本、そして世界の未来を育む社会価値の共創を目指すものである。これまで既に、約40社弱の企業が参加している。

第四の取組みは、2017年11月に導入された地域通貨「HUC（ひがしかわユニバーサルクーポン）」である<sup>8)</sup>。この通貨は町の商工会が発行するポイントカードで、小売り、飲食、リフォーム、理・美容、金融機関など、110ほどの地域内の事業者で使用することができ、町民の約8割が使用している。地域経済の活性化や地域間の結びつきを深める役割を果たしており、導入後、カード使用量は5倍になり、経済効果で換算すると半年足らずで2億2千万円との試算である。

---

6) 東川町 「東川町まち・ひと・しごと創生地方人口ビジョン」平成27年8月。

7) 東川町ひがしかわ株主制度とは。 <https://higashikawa-town.jp/kabunushi/about>

8) 最先端 IT 光る北海道東川町 — 日経 MJ 連載「未来にモテるマーケティング」4/8号。

第五の取組みは、地域の魅力を活かした「地域おこし協力隊」である<sup>9)</sup>。東川町の主な産業である「観光業」「農業」「木工業」の資源を有効に活用し、地域発展の支援と共に、移住者の増加を促すための取組みである。2020年度の北海道内の「移住公務員」（地域おこし協力隊）人数は、全国1位のダントツである。20年度の協力隊員数は東川町が50人で、ニセコ町（23人）、三笠市、上士幌町、新得町（いずれも17人）、厚真町（14人）の2倍以上と大差をつけている。豊かな自然や充実した教育環境を前面に出したPRや手厚い支援策で、お試し移住から定住の流れを確立し、人口増にも直結している。

第六の取組みは、「移住体験」である<sup>11)</sup>。最短3か月間から1年間生活し、東川町の魅力を発見できる体験である。自然に囲まれた環境の良い場所での子育てやリモートワーク、家庭菜園などの趣味、アクティビティなどを行う中で、四季を肌で体感したり、実際に町民としてまちづくりに参加できる体験である。宿泊先は、入居したその日からすぐに暮らせる充実した設備

図4 地域おこし協力隊の比較（2020年度）

地域おこし協力隊の人数			
		20年度	19年度比
①	東川町	50	7
②	ニセコ町	23	9
③	三笠市	17	5
③	上士幌町	17	5
③	新得町	17	7
⑥	厚真町	14	▲1
⑦	上川町	12	1
⑧	士別市	11	0
⑨	利尻町	10	0
⑩	北見市	9	▲1
⑩	美唄市	9	2
⑩	紋別市	9	0
⑩	砂川市	9	▲1
⑩	沼田町	9	1
⑩	中川町	9	▲1

(注)単位人、▲はマイナス

出典：日経データで読む地域再生<sup>10)</sup>

が揃っており、助成として家賃補助や町内で使用できる地域通貨の配布などがある。

東川町では、目指すまちづくりの基本的な考え方として、一般的には、あまり耳慣れないが『適疎（てきそ）』という概念のもと、まちづくりを推進している<sup>12)</sup>。過密でもなく過疎でもない「適当に『疎』（ゆとり）がある」という、まちづくりの理想像を示す基本的な考えかたとのことで

9) 地域おこし協力隊とは、2009年度に総務省によって、過疎や高齢化の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行い、その定住・定着を促進するために制定された制度である。地域協力活動は、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などが対象で、地域での生活や地域社会貢献に意欲のある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的としている。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年である。総務省では、地域おこし協力隊員の活動に要する経費として、隊員1人あたり480万円を上限に財政措置を行っている。2015年度には、全国673の自治体で2,625人の隊員が、2018年度には全国1,061の自治体で5,530人の隊員が、令和4年度には6,447名の隊員が全国で活動に参加している。総務省では、令和8年度までに隊員数を10,000人とする目標を掲げている。

10) 日本経済新聞 東川町の「移住公務員」全国1位、定住への流れ確立 2021年7月30日。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOFC298SR0Z20C21A7000000/>

11) 東川町 町に住む 移住体験。 <https://higashikawa-town.jp/portal/sumu/panel/39>

12) 東川町「適疎なまちづくり」 <https://higashikawa-town.jp/portal/rashisa/panel/108>

ある。この基本理念も、東川町への定住や移住を促進する要因の一つであると考えられる。

住宅やインテリアに関する様々な実用情報を掲載している住宅誌モダンリビングが、この東川町に移住者が多い理由を以下の5つに集約している<sup>13)</sup>。

- 旭川空港から車で15分の利便性
- 町の人たちが移住者にも優しい
- 水が美味しい
- 恵まれた自然環境
- 人口8500人の小さな町だが、文化度が高い

第七の取組みは、国際的な建築家である隈研吾氏と東川町が連携して実施する「KUAGUデザインコンペ」の取組である<sup>14)</sup>。東川町は、旭川家具の主要産地である。この国際コンペは、国内外を問わず、次の時代を担う若者に対して、新しい丁寧な暮らしの提案につながる「KAGU」のデザインを求める国際コンペである。この国際コンペは、半年にわたる厳格な審査を経て、毎年6月に東川町にて、最終審査会・表彰式が実施されている。2023年の第三回コンペでは、世界から12の作品が入選されている。因みに、東川町に魅了された隈研吾氏は、東川町にサテライトオフィスを開設するとのことである<sup>15)</sup>。

最後の取組みは、芸能事務所との連携による町の積極的な国内外への広報宣伝活動である<sup>16)</sup>。2023年1月、東川町は芸能事務所大手のホリプロと協定を締結している。総務省の地域活性

化起業人制度を活用して2月から社員1人を町内に派遣し、東川町のプロモーション映像を制作して、ふるさと納税や外国人誘客などのPR活動や、町内でタレントのプロモーション活動も行う取組みである。

## 2. 経済・ビジネス

### (1) 地域経済の概況

RESAS生産分析によれば、東川町の2018年の生産額(総額)は448億円である。その内訳は、第1次産業(農業)71.7億円(16.0%)、第2次産業182.7億円(40.8%)、第3次産業194.0億円(43.3%)である。第2次産業では、その他の製造業42.8%、建設業34.5%、食料品が7.6%の比重が大きい。一方、第3次産業では、幅広く多岐の部門が寄与している:保健衛生・社会事業(14.2%)、公務(13.6%)、宿泊・飲食サービス業(13.4%)、教育(12.9%)、住宅賃貸業(12.3%)である<sup>17)</sup>。

東川町の地域経済は拡大傾向にある。企業数は2009年の233から、2016年には279に増加している。同様に、事業所数も2009年の285から2016年には327事業所に拡大している。

従業員数で見ると、2016年は、全産業で2,133人である。産業別では、製造業が約三分の一の729人を雇用している。次いで、卸売業・小売業312人、農業・林業272人、宿泊業・飲食サービス業248人、医療・福祉178人である。

13) モダンリビング。 <https://www.modernliving.jp/house-interior/tips/a41181314/yuka-duallife-202209/>

14) 「隈研吾&東川町」KAGU デザインコンペ。 <https://www.kagu-higashikawa.jp/>

15) BiltITmedia。 <https://built.itmedia.co.jp/bt/articles/2108/02/news006.html>

16) 日本経済新聞「北海道東川町、ホリプロと協定 社員常駐、町のPR活動」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOFC261V40W3A120C2000000/>

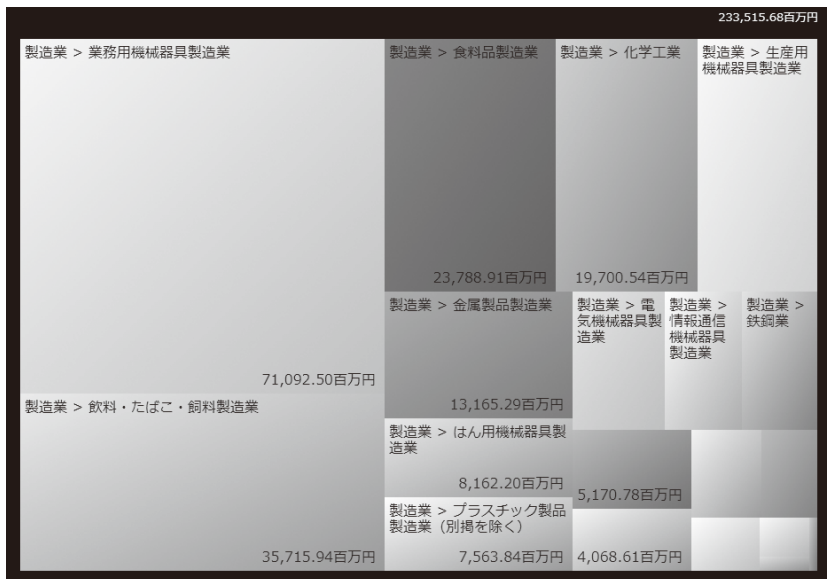
17) RESAS 地域経済循環マップ「生産分析 産業分類」。

図5 東川町の生産額内訳（2018年）



出典：RESAS 地域経済循環マップ「生産分析 産業分類」

図6 東川町の従業員者数内訳（2016年）



出典：RESAS 産業構造マップ「全産業の構造」

## (2) 農業

農業は、東川町の主要な産業の一つで、以下の特徴を持っている。

道内有数の米どころ：東川町は、大雪山国立

公園の麓に位置し、大雪山系の清水が豊富に注ぐ道内随一の米どころである。東川米ブランドを確立し、「ななつぼし」や「ゆめぴりか」という品種は、特Aランクを取得している。

野菜の多様性：冷涼な気候、大雪山の清流、肥沃な土壌を活かして、季節ごとに収穫される高原野菜や花など豊富な農産品を生産している。特にジャガイモは東川町の特産品の一つであり、美味しい品種が栽培されている。また、農業生産者は有機農法や減農薬栽培に取り組むなど、地元産の安全で健康的な野菜を提供することにも注力している。

東川町の農業関係のデータは次の通りである。2020年農林業センサスに拠れば、耕地面積は3,550haで、農業就業人口394人である。農業経営体数は、2005年の397から、漸減しており、2020年には、192経営体に縮小している。そのなかで、殆どが個人経営体（172経営体）である。また総農家数297戸、販売農家数172戸である<sup>18)</sup>。

経営体当たりの耕地面積は18.1haで、全国平均の3.05haの6倍弱である。しかし北海道平均の30.2haの6割の規模である。

また、経営耕地面積規模別では、1ha以下の零細農家が全体の17.7%であるが、1ha以上10ha未満の農家が30.2%（全国：1ha以上10ha未満 42.3%）を占めている。一方、10ha以上30ha未満の農家は38.0%で、30ha以上の大規模経営農家が14.1%である<sup>19)</sup>。

東川町の農業算出額は445千万円で、地域生産額の10%を占める。しかし同町の農産品は、主力の米（271千万円）と野菜（175千万円）であり、この2種類で地域農業算出額の98%を占める<sup>20)</sup>。

2020年の品目別農業産出額は図7の通りである。

図7 東川町の品目別農業産出額（2020年）



出典：RESAS産業構造マップ「農業の構造」

18) 農林水産省「わがマチ・わがムラ 市町村の姿 グラフと統計で見る農林水産業 基本データ 北海道東川町」。

<https://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/01/458/index.html>

19) RESAS 産業構造マップ「農業 農地分析」。

20) RESAS 産業構造マップ「品目別 農業産出額」。



### (3) 観光業

東川町は、北海道のほぼ中央に位置する美しい観光地で、その魅力を以下にまとめる。

- **自然の美しさ**：東川町は、大自然に囲まれており、大雪山をはじめ、温泉や景勝地など多様な観光資源を擁している。四季折々の美しい景観が楽しみ、渓谷、湖沼や温泉もあり、自然を満喫することができる。
- **温泉**：旭岳温泉と天人峡温泉 2つの温泉があり、美しい自然の中でゆったりと温泉を楽しむことができる。泉質も豊富で、温泉旅館や施設が点在しており、疲れた体を癒すのに最適な場所である。
- **アウトドア・アクティビティ**：登山やハイキング、キャンプ、釣り、スキーやスノーボードなど、さまざまなアクティビティが楽しみ、正にアウトドア・アクティビティ最適な場所である。
- **文化・伝統**：東川町は豊かな文化と伝統を持っている。地域の祭りや伝統行事が多く開催され、地元の人々の温かいおもてなしを体験することができる。また地元の特産品や伝統工芸品の販売も行われており、地元の文化に触れることもできる。
- **星空観測**：人口がまばらなため、夜空が非常に美しく、星空観測に最適な環境である。クリアな空気と美しい景観が相まって、素晴らしい星空を楽しむことができ、星空観測イベントや天体観測ツアーも開催されている。

東川町の観光統計は、北海道上川管内振興局が集計している。東川町は、地域の中核都市である旭川市を含む上川中部地域に属しており、同町の観光入込客数の割合は、旭川市を除く川上管内の8.5-9.0%を占めている。近年の東川町の観光入込客数の推移は次の通りである。平成27年度（2015年）の1,341.4千人から徐々に増加し、平成29年度（2017年）に1,488.8千人でピークを迎える。その後、減少に向かい令和元年（2019年）には、1,140.9千人と、前年から20%激減している<sup>21)</sup>。

川上管内総合振興局では、この減少の要因を次の様に分析している。

「街地・温泉街など観光施設の入込みは、概ね好調に推移したが、冬季の積雪量が少なかったことが影響し、例年よりスキー場の営業日が短くなってしまった。加えて、新型コロナウイルスにより3月の来客が減少した。また大型宿泊施設の長期休業も入込み数の減少の要因となっている。」（川上管内観光入込客数調査報告（令和2年、p.13）

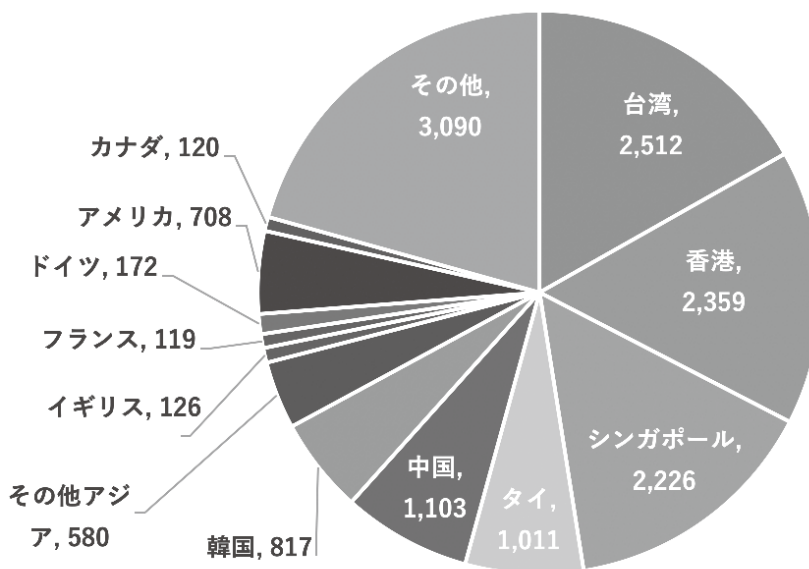
東川町の令和元年度（2019年）の観光入込客数1,140.9千人の内訳は、85%に相当する960.1千人が道内客である。また9割以上の1,055.8千人が日帰り客で、宿泊客数は僅か85.1千人である。

令和元年度（2019年）の外国人宿泊数は14,943人である。特にアジア圏からの外国人が70%（10,618人）と大きな割合を占める。国別では、台湾（2,512人）、香港（2,359人）、

21) 北海道川上管内総合振興局「川上管内観光入込客数調査報告：令和元年度（2019年）」 令和2年6月。

シンガポール (2,226人) の国・地域からの外国人だけで、約半数を占める。欧米からの宿泊者数は1,864人で、特に米国から708人が東町町を訪れている。

図8 東川町の訪日外国人宿泊数：令和元年度（2019年度）



出典：北海道川上管内総合振興局「川上管内観光入込客数調査報告：令和元年度（2019年）」 令和2年6月

#### (4) 産業別特化係数（2016年）

東川町の主要な産業（農業・林業、建設業）について、従業者一人当たりの生産性を示す産業別特化係数を見てみる<sup>22)</sup>。

中分類の製造業では、全国に比して特化した幾つかの業種がみられる。豊富な森林資源に特化した業種で、極めて高い特化係数を示している。特に家具・装備品製造業では、付加価値額の特化係数が30.36、労働生産性の特化係数0.91、従業者数の特化係数67.13である。次いで木材・木製品製造業では、付加価値額の特化

係数30.36、労働生産性の特化係数0.85、従業者数の特化係数23.08である。

一方、そのほかの製造業では、特段顕著な特化係数を示す業種はない。

#### (5) 製造業

木工業が盛んで多くの家具職人が集まっており、「旭川家具」の約30%は東川町で生産している<sup>23)</sup>。近年、大雪山の清流を生かした醸造業誘致に取り組み、2020年秋に三千櫻酒造が岐阜県から酒蔵を移転し話題となった。2021年

22) 特化係数：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

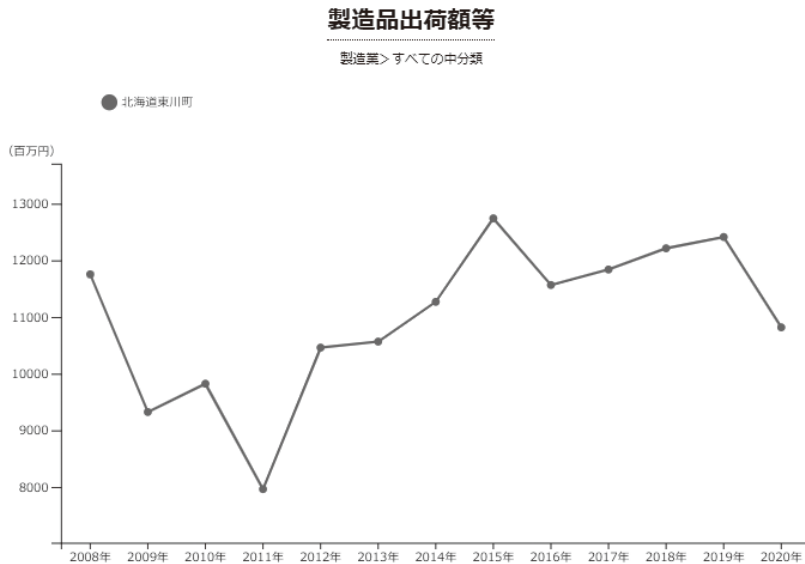
23) 北海道旭川市と上川郡東川町や東神楽町など近郊地域の家具メーカーが製造している家具の総称。

に東川町は構造改革特区の一つである「ワイン特区」に認定され、雪川醸造が東川町でのワインの生産を開始するなど、近年では醸造業も盛んになってきている。

東川町の製造品出荷額は、2020年に108億2,800万円である。この金額は、道内で66位、全国では、1,199位である<sup>24)</sup>。

2008年からの推移をみると、世界的な金融危機など外部要因の影響を受け、2011年に79億7,300万円と大幅な出荷減となるが、その後V字回復を果たした。2015年には127億5,200百万円を記録するが、2020年にはコロナ感染症の影響を受け、前年より13%減の出荷額となった。

図9 東川町の製造品出荷額の推移



出典：RESAS産業構造マップ「製造業製造品出荷額等」

#### (6) 小売・卸売業

東川町の2016年の小売・卸売業年間商品販売額は、74億3,600万円である<sup>25)</sup>。この金額は、道内で92位、全国では1,301位である。1994年以降の傾向をみると、1997年に最高額の145億6,600万円を記録するが、その後減少傾向にある。

#### (7) 企業数・事業所数・従業者数・一人当たり付加価値額と賃金水準 (2016年)<sup>26)</sup>

東川町の企業数・事業所数は、増加傾向にある。企業数は2009年の233社から2016年には279社へと20%増加をしている。同様に、事業所数数は、285事業所 (2009年) から327事業所 (2016年) と14.7%の増加である。一方、従業員数では、

24) RESAS 産業構造マップ「製造業 製造品出荷額等」。

25) RESAS 産業構造マップ「小売・卸売業 年間商品販売額」。

26) RESAS 産業構造マップ「全産業」。

2009年の2,887人から、2012年に2,852人に減少したが、その後回復し2016年には2,941人となっている。

また2016年の付加価値額（企業単位）は、74億1,400万円であり、これから算定される一人当たり付加価値額は、252.1万円である。これは、北海道平均の341.2万円の73.9%で、全国平均544.9万円と較べると46.2%とかなり低い水準に留まる。

一方で、2016年の賃金水準は全従業員の平均で334.8万円である。この賃金水準は、北海道平均3355.2万円の94.3%、また全国平均379.3万円と較べると88.1%の水準である<sup>27)</sup>。

#### (8) 高等教育修了者割合（2015年）<sup>28)</sup>

東川町の高等教育修了者（短大・高専修了者660人、大学・大学院修了者573人）は、1,233人で、高等教育修了者の割合は、18.1%である。

#### (9) 女性就業者割合（2015年）

2015年の東川町の総就業者数は、3,923人

である。そのうち女性就業者は1,818人で、女性就業者の割合は46.3%である<sup>29)</sup>。また、65歳以上の総人口は2,603人、うち就業者は716人で、高齢者の就業率は27.5%である<sup>30)</sup>。

女性就業者の割合は全国平均（2015年）の43.8%より2.5ポイント高い同水準であるが、高齢者の就業率は全国平均（2015年に23.3%）よりも4ポイントほど高い<sup>31)</sup>。

#### (10) 在留外国人データ

東川町の2023年2月末時点における外国人居住者は512人である<sup>32)</sup>。これは、町内総人口の6.0%に相当する。この割合は全国平均の全国平均の2.3%に比べ、2.6倍と極めて高い水準である。

過去の推移を見てみると、平成24年（2012）に初めて外国人50名の居住が登録されている。その後、僅か10年で10倍の500人規模に急増している。これは、外国人にとって、東川町は住みやすく極めて魅力ある町であることを如実に示している。

一方、在留外国人統計によると、2023年6

---

27) 総務省統計局「平成28年経済センサス活動調査結果」における「給与総額」と「福利厚生費総額」の合計を「従業員数」（A～R全産業（S公務を除く））で除して算出した数値。

28) 総務省統計局「平成22年国勢調査結果」の「産業等基本集計（労働力状態、就業者の産業など）」に掲載されている高等教育修了者（「卒業者 短大・高専」「卒業者 大学・大学院」）を総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の18歳以上人口で除した値。

29) 総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の「就業状態等基本集計（労働力状態、就業者の産業・職業など）」に掲載されている女性就業者数を、同調査に掲載されている総就業者数で除して算出した値。

30) 総務省統計局「平成27年度国勢調査結果」における「就業状態等基本集計（労働力状態、就業者の産業・職業など）」中の「労働力状態（8区分）、年齢（5歳階級）、男女別15歳以上人口及び労働力率—都道府県、市区町村」。

31) 総務省統計局「統計トピックス No.126 統計からみた我が国の高齢者」2. 高齢者の就業（2015年の高齢就業者は732万人）と平成27年国勢調査結果（2015年の高齢者人口3145万6491人）に基づいて算定した。

32) 東川町人口動態最新統計。令和5年2月。

月の在留外国人は522人である。アジアからの外国人が57.2%を占めている。国別の内訳では、ベトナム99人(19.0%)、中国65人(12.5%)、インドネシア64人(12.3%)、台湾36人(6.9%)である<sup>33)</sup>。

一方、在留資格別で見ると、留学(341人)が、65.3%と圧倒的な地位を占めている。次のカテゴリーとして、技能実習生が83人(15.9%)である。内訳は、特定技能1号39人、技能実習1号16人、技能実習2号28人である。その他には、技術・人文知識・国際業務38人(7.3%)、家族滞在11人、永住者9人、配偶者等13人となっている<sup>34)</sup>。

### (11) 地方自治体の財政状況に関するデータ

#### (2020年度)

東川町の財政状況に関するデータを概観する。財政力指数は0.25で、全国平均0.51の50%に当たり、財政基盤が必ずしも強固であるとは言えない<sup>35)</sup>。実質公債費比率は9.4%(全国平均5.7%)<sup>36)</sup>、一人当たり地方税は10.9万円<sup>37)</sup>、人口1万人当たり職員数136.54(全国平均を100とする)である<sup>38)</sup>。

## 3. 研究・開発

研究・開発の面における東川町の概観としては、製造業の大規模事業所や大学などの高等教

育機関が立地していないため、特筆すべき事項はない。

### (1) 留学生受け入れ数

東川町では、全国でも例を見ない大変ユニークな取組みを行っているので、ここで簡単に紹介する。先ず第一に、2015年10月に、全国初の公立の「東川日本語学校」を設立したことである<sup>39)</sup>。

この学校の目的は、①日本語、日本文化を世界に広め、日本語教育を通して国際貢献する、②東川町を世界に向けてPRし、世界に開かれた町づくりを推進する、③交流人口を増やし、地域及び地域経済の活性化を図ることにある。

現在、長期と短期の2コースが設置されている。長期コースは、日本語を本格的に学ぶための1年間のコースで、春及び秋入学が可能で、募集定員は100名である。この学校の特徴は、①豊かな自然のなかで学習に集中できる環境が整っていること、②日本語だけでなく日本の文化や北海道の自然についても学ぶ、③入学前から日々の生活のサポート体制が充実している、ことが挙げられる。これらの特徴を活かし、実践的な日本語能力を短期間で向上させ、卒業後の進路まで、しっかりと留学生の面倒を見ている。

現在、長期と短期の2コースが設置されてい

33) 在留外国人統計(2023年6月)第3表 市区町村別 国籍・地域別 在留外国人。

34) 在留外国人統計(2023年6月)第4表 市区町村別 在留資格別 在留外国人。

35) 地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。

36) RESAS 地方財政マップ「自治体財政状況の比較」。

37) RESAS 地方財政マップ「一人当たり地方税」。

38) RESAS 地方財政マップ「自治体財政状況の比較」。

39) 東川町立東川日本語学校。https://higashikawa-jls.com/

る。長期コースは、日本語を本格的に学ぶための1年間のコースで、春及び秋入学が可能で、募集定員は100名である。2015年の開校以来、2023年4月入学までに572人の留学生を受け入れている。国別では、台湾121人、中国102人、対31人、ベトナム94人、インドネシア60人、韓国30人で、殆どの留学生はアジア出身である。

卒業後の進路は、約半数は帰国し、また半数は日本での進路を選択している。近年、国内の大学や専門学校への進学や日本での就職を希望する学生が増加傾向にある。進学先としては、道内を中心に全国の大学に進学している。就職先も道内が圧倒的に多いが、多様な分野に就職している。

一方、短期コースは、初級レベルから日本語を勉強したい青少年が対象で、1ヶ月～3ヶ月の短期間で、入学は不定期でまた定員の制限はない。内容は、午前中の授業に加え、茶道など日本文化体験、日本語能力試験（JLPT）対策の補修や東川町の自然と特色を活かしたアクティビティ体験など、様々なプログラムが組まれている。現在までの受講者は、3,300人を超えている。国別内訳では、韓国525人、台湾1,140人、中国864人、タイ520人などである。

もう一つの取組みは、昭和47年（1975年）に設立され、50年の歴史を持つ学校法人北工学園旭川福祉専門学校である。この専門学校には、介護福祉科（定員160人）・医療福祉科（定員80人）・こども学科（定員100人）・日本語学科（1年半コース定員120人、2年コース定員80人）の4つの学科がある。その中で、介護福祉科と日本語学科で、留学生を受入れている。介護福祉科では、2015年以降2023年4月入学までに、161人を受入れている。国別では、

インドネシア49人、ベトナム34人、中国22人、タイ12人、ネパール12人などである。一方、日本語学科では、2014年の第一期生から今日までに、アジアからの留学生を中心に、総勢772人を受入れている。国別では、タイ273人、ベトナム237人、台湾103人、中国60人などである。卒業後の進路としては、国内・道内就職が93%、海外就職が7%である。主な就職先は、特別養護老人ホーム。病院、グループホーム、高齢者コミュニティなどである。

東川町では、これら2つの学校と連携して、幾つかの顕著な仕組みと支援を行っている。

- **海外事務所の設置**：台湾、タイ、中国、韓国、ベトナムの5ヶ国に留学生募集窓口として、現地事務所（現地の個人や法人に営業委託）、またインドネシアとモンゴルには、協力事務所を設置し、広報から留学生募集に加え、ビザ申請も含めた事務処理を行っている。更に、東川町の観光及び物産PRも行っている。
- **宿泊施設の整備**：留学生は、基本的に町内の学生会館に入館することが基本となっている。町内には、東川町が所有する国際交流会館（108室 182名）、国際交流館マ・メゾン東川（142室 164名）、せんとぴゅあ宿泊棟（19室 60名）がある。また短期研修生などを対象に、東川暮らし体験館（15室 90名）があり、留学生が安心して来日し、充実した生活が送れ、勉学に集中できる抜群の施設が完備されている。
- **留学生用の相談支援**：東川町多文化共生室を中心に、地域活性化企業人の派遣、留学生の生活面に関する相談や進路（進学や就

職)に関する相談を行っている。また多文化共生の観点から、日本文化の体験や住民との交流機会を通して、留学生同士の文化や言語を越えた交流促進を促す支援もを行っている。

- **経済的支援**：授業料、教材費、実習費、寮費や生活費をサポートするための給付型奨学金の拡充。
- **外国人介護福祉人材育成支援事業の設立**：2018年12月に、北海道と協議の上、道北地域のモデル事業として、国の留学生支援事業などを活用した協議会を設立。東川町あるいは各自治体を中心となって、介護福祉士養成のための奨学金を創設。

## (2) SDGs、地方創生・地域開発に

### 取り組む大学

該当なし。

## (3) グローバルニッチトップ企業

(2014年・2020年)

該当なし。

## (4) はばたく中小企業・小規模事業者300社

(2017年～2020年)

該当なし。

## (5) 特許数 (2020年)

該当なし。

## (6) 創業比率<sup>40)</sup> (2014～2016年)

東川町の創業比率は、7.29%である。この数値は、全国平均の5.04%、また北海道平均の4.88%を2ポイント上回る水準である。道内の市町村で13位、全国では85位に位置する高い数字である。

近年、岐阜県中津川市で長年酒造りをしてきた老舗酒蔵が、東川町に移転し、話題となった<sup>41)</sup>。1877 (明治10) 年創業で143年の歴史を誇る三千櫻酒造が、2020年11月に東川町に移転し、21年春には東川の米で仕込んだ新しい酒をリリースした。地元密着型企業の代表である酒蔵が地域をまたいで移転すること極めて稀である。

これは、建物などハードを町が提供し、酒造りなどソフトを民間の酒蔵が受け持つ、全国でも珍しい公設民営型のモデルである。ハードの資金は国からの補助を活用、一部を三千櫻酒造が負担し、町としての実質負担は少ない。地元の企業が増え、雇用が増え、地酒という名産品ができ、町のイメージも上がり、町民もその恩恵を享受できるという三方よしのモデルの典型である。

## (7) 表彰 (2015～2019年)

東川町には、当該期間中の表彰事例はない<sup>42)</sup>。

---

40) RESAS 企業活動マップ「企業情報 創業比率」。

41) 日本経済新聞「職人呼び込み「町の酒蔵」 北海道東川、特産目指して」2020年3月25日朝刊。

42) RESAS 企業活動マップ「企業情報 表彰・補助金採択」。

## 4. 文化・交流

### (1) 観光地の数・評価

東川町の主な観光資源は、以下の通りである。

旭岳、旭岳温泉、天人峡温泉、羽衣の滝などの自然資源を中心とした大雪山地区、キャンプ場やケビン（貸別荘）、スキー場などが一体的に整備された「キトウシ森林公園家族旅行村」を擁するキトウシ地区、ヨーロッパを中心としたデザイン家具コレクション群である織田コレクションや大雪山の貴重な文献等を展示紹介する東川町文化芸術交流センター、道の駅ひがしかわ「道草館」を中心とする中心市街地地区のほか、農村部に点在する木工クラフトのアトリエやカフェ、パン屋をはじめとする飲食店など、多様な観光資源を擁している。また、四季の変化が明瞭で、春の新緑に始まり、湿度が低く過ごしやすい夏、紅葉が見事な秋、降雪によりウィンタースポーツを楽しめる冬など、季節特有の観光形態を生みだしている。

一方、大雪山地域では、11件の温泉宿泊施設が営業しており、古くから登山や温泉客が訪れている。大雪山地域における平成28年度の観光入込客数は29.2万人で、本地域における主要な観光地域のひとつとなっている。また、旭岳は国内で最も早く降雪が見込まれる地域のひとつであり、ノルディックスキーの日本代表チームをはじめ実業団、大学生などの合宿地となっている。このほか、キトウシ地区には、キャンプ場やケビン、スキー場などを擁するキトウシ

森林公園家族旅行村が整備されており、家族連れでにぎわっている。

大手旅行ウェブサイトのトリップアドバイザーで東川町の「観光スポット」をクリックすると、27件（口コミ数1,151）がヒットする。旭岳に関連するスポットが多くを占めており、豊かな自然景観が上位を占めている。トップは旭岳であり（口コミ数374件）、2位が旭岳ロープウェイ（口コミ数241件）、そして3位が旭岳自然探勝路（口コミ数65件）の順である。一方、口コミ数で見ると、道の駅ひがしかわ町道草館（口コミ数110件）が、第3位に食い込んでいる。

### (2) 文化財指定件数

東川町には、1971年に国の天然記念物指定、1977年に特別天然記念物の指定を受けた大雪山がある<sup>44)</sup>。

### (3) (県・市) 指定文化財件数

道指定の史跡名勝記念物に分類される文化財「羽衣の滝」がある。

また、以下の町指定文化財がある<sup>45)</sup>。

#### ・有形文化財（建造物）

- 相馬妙見宮
- 土蔵
- 明治の家
- 大正の家 -

東川町キトウシ森林公園家族旅行村内

43) トリップアドバイザー「北海道東川町」の「観光スポット」の件数と口コミの合計数。

44) 文化庁 国指定文化財等データベース <https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>

45) 東川町文化財デジタルアーカイブ <https://higashikawa-bunnkazai-archive.jp/>

並びに東川町地域資源第2章 業務対象地の現況調査。



- ・有形文化財（美術工芸品）
  - 園田仁右衛門翁碑
  - 岡本篤太郎氏碑
  - 開拓記念碑
- ・民族文化財（無形）
  - 北海道東川町郷土芸能羽衣太鼓保存会

#### (4) 天然記念物<sup>46)</sup>

更に、町指定の以下の天然記念物がある。

- ・ かしわ（群生）
- ・ 五葉松（ヒメコマツ）2本
- ・ いちい（5本）
- ・ シンバク
- ・ はいまつ
- ・ ズナラ（群生）
- ・ 東川町の地下水及び旭岳源水

#### (5) 景観まちづくりへの貢献度

該当なし<sup>47)</sup>。

#### (6) 美術館数・博物館数

大手旅行ウェブサイトのじゃらんによると、東川町には、2件の美術館・博物館がある<sup>48)</sup>。

- ・ 東川町郷土館
- ・ 東川文化ギャラリー

#### (7) イベントの数・評価

東川町では1年を通じて様々なお祭りやイベントを開催している<sup>49)</sup>。

先ず何と云っても、写真の町東川町を代表する「東川町国際写真フェスティバル」(通称：フォトフェスタ)と「全国高等学校写真選手権大会」(通称：写真甲子園)が挙げられる。

1985年、東川町は豊かな文化田園都市づくりをめざして、大変ユニークな「写真の町宣言」を行った。写真文化によって町づくりや生活づくり、そして人づくりを行う、世界でも類のない取り組みで、2014年には「写真文化首都」を宣言している。

「写真の町東川賞（1985年）」の創設や東川町文化ギャラリーにおける展覧会の開催など、写真文化を通じたまちづくりを行なっている。会期中には、写真の町東川賞授賞式を中心に、受賞作家作品展やシンポジウム、写真家たちと出会う各種パーティ、新人写真家の登龍門ともいえる写真インディペンデンス展、ストリートフォトギャラリー、など写真が異分野の文化と出会うイベントが多数開催されている。

次に「全国高等学校写真選手権大会」がある。1994年に始まった全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」は全国の高校写真部・サークルに新しい活動の場や目標、そして出会い・交



46) 前述、東川町文化財デジタルアーカイブ。

47) 国土交通省、「都市景観大賞 平成14年度『美しいまちなみ優秀賞』」。

48) じゃらん「東川町の博物館」。https://www.jalan.net/kankou/cit\_014580000/g2\_29/

49) ひがしかわ観光協会。https://higashikawa-town.jp/portal/meguru/panel/20

流の機会を提供し、高校生らしい創造性や感受性の育成と活動の向上をもって、学校生活の充実と特別活動の振興に寄与することを目的とした大会である。

全国の高校写真部・サークルなどから、共同制作による作品（組写真）を募集し、作品審査及びプレゼンテーション審査によって全国11ブロックから優秀校18校を選抜し、本戦大会開催地である東川町にて、同一条件下、高校写真部の全国一を選出する大会である。

更に「高校生国際交流写真フェスティバル」がある<sup>50)</sup>。2015年に北海道「写真の町」東川町が、未来に向かって均衡ある適疎な町づくりを目指すことを目的とし、写真文化の中心として、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げるため開催されたフェスティバルである。東川町と交流のある国・地域から、テーマに沿った作品（組写真）を募集し、国・地域ごとに実施される作品審査を通過した選抜校が東川町に招聘され、写真を通じた交流にて友情の輪を広げる取組みである。現在、アジアを中心に世界21ヶ国が参加対象国である。

その他にも、次のようなイベントが開催され



ている。

- ひがしかわ氷まつり：例年1月の第三週目の週末に開催される。会場の羽衣公園で、氷像コンテストが開催され、24時間という限られた時間で氷の彫刻を完成させ、その美しさを競う。
- 暮らし楽しくフェスティバル：キトウシ森林公園が会場で、毎年春と秋に1回ずつ開催される。地元の野菜や苗が直売されるほか、屋台やリーマーケットも並び、東川の国際交流員による各国料理の販売などもあり、ステージではダンスや音楽などのプログラムが披露される。
- 旭岳 山の祭り【ヌプリコロカムイノミ】：夏山の到来にあたり、登山者と山岳関係者の安全祈願と観光地の繁栄を祈願するお祭り。
- ひがしかわどんとこい祭り：東川町国際写真フェスティバルと同時期に開催され、羽衣公園周辺に屋台が並び、賑やかな夏を祝うお祭り。
- 大雪旭岳 SEA TO SUMMIT：人力のみで海から里、そして山頂へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえのない自然について考えようという環境スポーツイベント。

## (8) 宿泊施設客室数

東川町の公式観光協会のHPには、観光関連施設は地区ごとに以下の宿泊施設が掲載されている<sup>51)</sup>。

50) 第8回高校生国際交流写真フェスティバル2023。 <https://higashikawa-youth-fest.jp/>

51) 「ようこそ東川」は一般社団法人ひがしかわ観光協会。 <http://www.welcome-higashikawa.jp/stay/>

- ・ 旭岳温泉 :8 軒
- ・ 天人峡温泉 :1 軒
- ・ キトウシ :2 軒
- ・ 東川町中心部 :6 軒

観光地域づくり法人形成・確立計画によると、令和2年10月時点で、東川町には、58件の宿泊施設、客室数576、収容人数2,305人である<sup>52)</sup>。

用途は、旭岳の大自然を満喫することができるアウトドア向きがメインある。具体的には、夏は登山、冬はスキー・スノーボードなどである。規模は数名から10名程度までの小規模である。いわゆる「ハイクラス」に相当する宿泊施設はないが、山岳・登山、スキーヤーを志向する若者や、また大自然に囲まれた山小屋スタイルのアットホームな宿泊施設を味わいたい家族連れには最適と言える。

東川町の良質で多様な観光資源を活かし、将来の地域の活性化に繋ぐためには、幾つかの視点が考えられる。現在の状況を踏まえ、一つには留学生の中長期滞在があげられる。平成27年に東川町が国内初となる公立日本語学校を開設して以来、年間500人以上もの外国人が中長期滞在している。日本文化の理解や、滞在期間中の旅行等への消費には積極的な傾向にあり、旅行者等による短期滞在ニーズだけでなく、中長期滞在者による潜在的ニーズの創出も重要である。また最近インバウンド観光、特に富裕層を対象とした国や地方自治体の誘客事業が本格

的に動き出している。他の観光地との差別化を図り、国内外の観光客を対象とした、滞在型・体験型の観光を取入れたインバウンド観光の推進に積極的に取り組むためには、もう一段上の宿泊施設の拡充が必要となるだろう。この点に関しては、東川町の基本理念「東川スタイル」また「適疎」に代表される東川町の将来のまちづくりの構想との整合性を検討する必要がある。

### (9) 観光案内所・病院の多言語対応

海外からのインバウンドの観光客を積極的に受け入れるには、宿泊施設の整備・拡充に加えて、多言語対応の観光案内所を設けることに加えて、多言語対応の病院の整備が必要不可欠である。

多言語対応の施設として、道の駅 ひがしかわ「道草館」では、英語・中国語の常勤の多言語対応が可能である。韓国語に対しては、非対応である。

また東川町から車で30分弱（15km県内）の旭川観光物産情報センターでは、英語・中国語の常勤の多言語対応が可能である。韓国語に対しては、パートタイムでの対応である。加えて、スペイン語及びタイ語の対応（パートタイム）が可能である。

最後に、道北の拠点都市、旭川空港総合案内所では、東川町同様に、英語・中国語の常勤の多言語対応が可能であるが、韓国語に対しては、非対応である。

52) 一般社団法人大雪カムイミンタラ DMO 「観光地域づくり法人形成・確立計画」 令和4年10月。

53) 病院ナビ 旭川市。https://byoinnavi.jp/hokkaido/asahikawashi/english\_speakers

一方、東川町には、4つの医療機関がある。これらの医療機関での多言語対応についてのデータがなく、追跡調査の対象項目である。

- 国民健康保険東川町立診療所
- 東川歯科クリニック
- 松山デンタルクリニック
- 東川こども歯科クリニック

一方、病院ナビによると、旭川市には以下7つの多言語対応病院が挙げられている<sup>53)</sup>。

- あさひかわ眼科クリニック …… 英語
- 杉本こども・内科クリニック …… 英語
- 医療法人光健会 十川眼科 …… 英語
- のむら ひふ科耳鼻咽喉科甲状腺クリニック …… 英語

- 医療法人社団 清水内科医院 …… 英語
- 寺西眼科医院 …… 英語
- 呼吸器内科・内科とおるクリニック …… 英語

### (10) 休日の人の多さ

観光分析の一つとして、東川町の休日の滞在人口率をみると、次の通りである。2020年の休日午後2時の滞在人口の平均を国勢調査人口(15歳以上80歳未満6,253人)で除した数値の変化を見てみよう。5月から夏場にかけて、東川町を訪れる来訪者が増加することが、明確に読み取れる。特に9月は、1.13と最高値を記録し、山岳の景観や紅葉を求めて訪れる観光客が多いことが伺える<sup>54)</sup>。

図 10 東川町の訪日外国旅行者訪問数の推移 (2019年) 昼間 (10 - 18時)



出典：RESAS観光マップ「外国人滞在分析 地域別滞在者数の推移 (2019年) 昼間 (10-18時)」

53) 病院ナビ 旭川市。https://byoinnavi.jp/hokkaido/asahikawashi/english\_speakers

54) RESAS まちづくりマップ「滞在人口率」。

### (11) 行楽・観光目的の訪問の多さ

「地域ブランド調査2022」対象地域に入っていないため、該当なし<sup>55)</sup>。

### (12) 訪日外国旅行者訪問数（2019年）

東川町の昼間（10-18時）の滞在者数の年間合計は、29,171人であり、月平均は、2,430.9人である<sup>56)</sup>。図10に訪日外国旅行者訪問数の月別の推移を示す（2019年）。多くの外国人訪問客は、5月以降の夏場に東川町を訪れている。7月にはピークの3,563人、次いで8月の3,273人である。一方、11月が閑散期で、僅か789人の訪問である。

### (13) 訪日外国人旅行者宿泊数（2019年）

東川町の夜間（2-5時）の年間滞在者数は、22,231人であり、月平均は、1,852.6人である<sup>57)</sup>。これは東川町を訪問する訪日外国人旅行者の約75%に相当する観光客は、宿泊日数は別として、同市に滞在することを意味している。

外国人宿泊者の月別推移をみると、訪日外国旅行者訪問の推移と同様の傾向を示している。即ち、夏場のアウトドア観光に合わせ、滞在するパターンである。

図 11 東川町の訪日外国旅行者訪問数の推移（2019年）夜間（2-5時）



出典：RESAS 観光マップ「外国人滞在分析 地域別滞在者数の推移（2019年）夜間（2-5時）」

55) 株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査 2022」における「訪問経験 Q9(行楽・観光のため)」の値(%)。

56) RESAS 観光マップ「外国人滞在分析」。

57) RESAS 観光マップ「外国人滞在分析」。

#### (14) 国際会議開催件数

東川町の2010-2019年の10年間における国際会議開催は、0件であり、国際的イベントは開催されているが、国際会議などの開催誘致は、今後の課題でもある<sup>58)</sup>。

#### (15) 観光客誘致活動

東川町には、「大雪カムイミンタラDMO (destination management organization)」がある<sup>59)</sup>。この団体は、旭川市を中心とした1市7町(旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町)、いわゆる大雪(たいせつ)エリアの「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域作りを目指す組織として、平成29年に設立された。その目的は、次の通りである。

「アイヌの人々が「神々の遊ぶ庭(カムイミンタラ)」と呼んだ大雪山国立公園を核とするこの圏域が、新たな滞在観光エリアとして国内外の多くの人々に認知され、大雪山がもたらす四季折々の自然や食、歴史・文化体験、スポーツ環境等を求めて幾度となく訪れたい地域として選ばれるように、圏域の民間・行政が一体となって、ブランド形成に向けた事業に取り組み、観光関連産業の振興と交流人口の拡大による地域経済の活性化を促進し、豊かな地域社会の実現を図る。」

このDMOの中で、東川町の位置づけは、次の通りである。

「世界に類のない「写真の町」を宣言しているこの町は全国的にも珍しい住民すべてが地下水で生活する町(上水道のない町)です。「平成の名水百選」に選ばれている「大雪旭岳湧水」は日量6,000トンを誇るミネラル豊富な湧水である。旭岳温泉は旭岳の中腹にあり、登山、スキーなどその雄大な自然を存分に楽しむことができ、天人峡温泉の奥には「日本の滝百選」に選定されている「羽衣の滝」や東洋のナイアガラと謳われる「敷島の滝」がある。7月下旬に毎年開催される全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園)は全国的に有名なイベントとなっている。大雪山系からの雪解け水と、米を活用した日本酒を町の特産品にするため、自治体主導で酒蔵建設に乗り出し、令和2年11月に醸造を開始(三千櫻酒造～岐阜県から移転。)

#### (16) 自治体SNSフォロワー数

東川町は、SNSを活用した発信に大変積極的である。町の公式SNSアカウントは、12を数える。なかでもFacebookのフォロワー数9,563人、Twitterのフォロワー数は2,874人、またYoutubeのチャンネル登録者は881人を超える。

#### (17) 魅力度・認知度・観光意欲度

東川町は「地域ブランド調査2022」では取り上げられていないため割愛する。

58) 日本政府観光局「2019年国際会議統計 資料編1 国内都市別 国際会議開催件数一覧表」。

59) Mountain City Resort. <https://www.taisetsu-kamui.jp/>

### (18) 日本人大学生の海外留学・海外派遣数

東川町には、大学は存在しないが、3つの高校以上の教育機関がある。

- 学校法人北工学園旭川福祉専門学校
- 東川町立東川日本語学校
- 北海道東川高等学校

北海道東川高等学校では、2015年に東川町費を活用して、東欧のラトビア・北米のカナダ・東アジアの台湾など3ヶ国に、各2名を約3週間派遣している。しかし、近年には海外留学や海外派遣についての報告はない。

### (19) 姉妹都市提携数

東川町の公式HPによると、次の海外の都市と姉妹提携都市として提携している<sup>60)</sup>。

#### 姉妹都市

- キャンモア町 (カナダ アルバータ州)  
1989年(平成元年)7月12日提携
- ルーイエナ町(ラトビア ルーイエナ州)  
2008年(平成20年)7月17日提携
- アニワ市(ロシア サハリン州)  
2019年(令和元年)9月18日日提携

#### 文化交流提携都市

- 寧越郡(大韓民国 江原特別自治道)  
2010年(平成22年)11月4日締結

### (20) 姉妹都市への青少年海外派遣事業を

#### 通じた派遣数

3つの姉妹都市との活発な、相互交流を行っているとの報告であるが、詳細は不明<sup>61)</sup>。

### (21) 高等学校による海外派遣事業を 通じた派遣数

報告なし。

### (22) その他の枠組みによる

#### 青少年の海外派遣数

東川町では、多様な国際交流事業を長年行ってきている。先にも述べたが、国内初となる公立日本語学校の開設や、高校生国際交流写真フェスティバルの開催など、多様でユニークな国際交流の取り組みを行っている。これらの様々な多様性共生・国際交流の活動を通して、特にアジア諸国との派遣や受入れを実施している。

- 写真を通じた交流：世界中の高校生が集う「高校生国際交流写真フェスティバル」など写真を通じた交流(2019年度は22の国・地域が参加)
- 日本語教育事業：全国唯一となる公立日本語学校のほか、福祉専門学校による日本語学科により常時300名程
- JETプログラム活用：JETプログラムによる外国人青年の招致(15か国より19名)
  - 英語指導助手 …………… 5名
  - スポーツ国際交流員 …………… 4名
  - 国際交流員 …………… 11名
- 外国人介護人材育成事業：他地域と連携し留学生を招致し、東川町内の福祉専門学校にて、全国的に不足する介護福祉士を養成

60) <https://higashikawa-town.jp/portal/machi/panel/9>

61) 総務省 国際交流の取組み 海外の人たち共に～多文化共生のまちづくり。

## 5. 生活・居住

### (1) 外国人住民の受入れ体制

東川町の2023年2月末時点における外国人居住者は512人である<sup>62)</sup>。これは、町内総人口の6.0%に相当する。この割合は全国平均の全国平均の2.3%に比べ、2.6倍と極めて高い水準である。この全国でも例を見ない実績に対し、東川町は、どのような行政サービスを提供しているのか。

### (2) 外国人の住民投票権

外国人に住民投票権を認めていない<sup>63)</sup>。

### (3) 小売事業所密度

生活し居住する場所として東川町を見てみよう。小売事業所の総数は44事業所（2016年）であるが、小分類での内訳が載っていないため、詳細は不明である<sup>64)</sup>。

小売事業所総数を人口で除した人口1万人当たり事業所数は17.1であり、現状、必ずしも生活に密着した小売事業が多いわけではない。1994年以降の事業所数の推移をみると、小売業は、2012年までは減少傾向にあるが、2012年を底に、その後に微増している。

### (4) 飲食料点小売店舗密度

東川町の飲食料点小売店舗は、2016年に24店舗である<sup>65)</sup>。2009年以降の推移をみると、2009年の20件から2011年に22件に増加したが、2014年に18件に減少した。しかしその後、回復し飲食料点小売店舗数は上昇傾向にあると言える。人口1万人当たりの飲食店舗数は29.6である<sup>66)</sup>。

### (5) コンビニ密度

最後に、東川町のコンビニエンスストアの店舗数を見ると、全部で3店舗である。何れも市街地区に存在している。人口1万人当たりのコンビニ数は3.5店舗である。

## 6. 交通・アクセス

### (1) 公共交通の利便性

東川町は、道北の中核都市旭川市の中心部から約13km（車で約22分）、旭川空港から約7km（車で約13分）と極めて交通アクセスのいい立地条件である。東川町に鉄道は通っておらず、最寄りの駅はJR旭川駅である。道北の中核都市「旭川市」の中心部まで路線バス、または車での移動である<sup>67)</sup>。路線バス利用の場合には、旭川駅～東川道草館前の区間を旭川電気軌道が運行しており、所要時間は30分程度である。

---

62) 東川町人口動態最新統計。令和5年2月。

63) ウィキペディア「住民投票条例 投票資格の範囲」。

64) RESAS 産業構造マップ「小売・卸売業 商業の構造」。

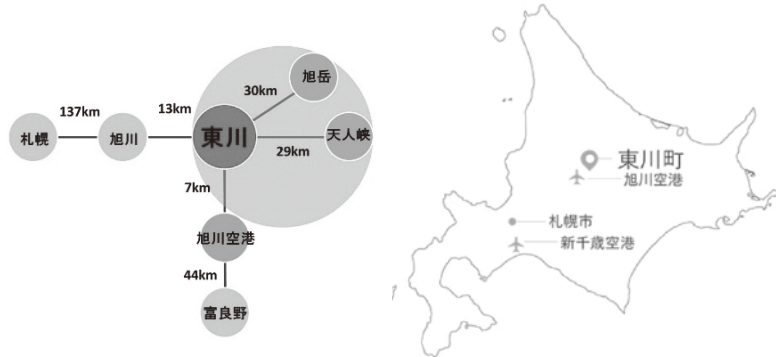
65) 総務庁 統計ダッシュボード。 <https://dashboard.e-stat.go.jp/>

66) タウンページ「コンビニエンスストア 東川町」での検索結果。

67) 「ようこそ東川」一般社団法人ひがしかわ観光協会。 <http://www.welcome-higashikawa.jp/about/>



図12 東川町への航空アクセス



出典：一般社団法人ひがしかわ観光協会HP ほか

更に、旭川市内-旭川駅-旭川空港-東川町中心部-旭岳温泉を結ぶ1日4往復のシャトルバスいで湯号（旭川電気軌道66号バス）も運行している。そのほか道内の各都市、各拠点にもアクセスしやすく利便性が高い。旭川駅と新千歳空港・南千歳駅を結ぶ1日4本、完全予約制の都市間バス「たいせつライナー」も運行している。

地域内での短距離移動には、町や地域住民が主体となって実施している乗り合いタクシーやボランティアによる送迎サービスなどが利用されている。

現在、スクールバスとして5便、乗合タクシーとして6便が運行をしている。現況、日常生活の交通手段として自動車を利用する人が多いが、今後、少子高齢化の影響から質の高い公共交通サービスが求められる状況にあるだろう。

この点においても東川町では革新的な取組を行っている。地域内の移動を支える仕組みとして、自動運転バスを活用することで、公共交通の利便性向上や地域活性化を目指す新たな取組みである。

東川町とBOLDLY株式会社（ソフトバンク株式会社の子会社）は、将来的な東川町での自動運転バスの定常運行を目指し、東川町の町役場や道の駅ひがしかわ「道草館」などを通る1周約2.6kmのルートで、自動運転バス「NAVYA ARMA（ナビヤ アルマ）」の実証試運転を、2023年3月に実施した<sup>68)</sup>。試運行では、雪道における自動運転バスの走行を検証するとともに、町役場や道の駅周辺など交通量が多い市街地で将来、1日に約15便の運行を目指すとのことである。

図13 東川町内を走行する自動運転バスの試運転状況



68) 日刊工業新聞「北海道の東川町において雪道での自動運転バスの試運行を実施」2023年3月6日。

## (2) 空港アクセス時間の短さ

北海道のほぼ中央に位置する「東川町」は、旭川空港から東川町中心部まで車で約13分の距離にあり、空港アクセスは抜群である。旭川空港までは約7kmのアクセスである。

国内線は、日本航空（JAL）、全日本空輸（ANA）、エアドゥ（ADO）3社が運航している。東京（羽田空港）から約1時間半のフライトである。その他に名古屋までの直行便と大阪方面の期間運航の直行便もある。国際便では、台北とソウルの直行便を運航している。

新千歳空港を利用する場合は、高速道路を使い前述した都市間バス「たいせつライナー」を利用すると、約3時間30分で東川町中心部まで到着可能である。

## (3) 新幹線の利用しやすさ

新幹線利用の場合、東川町へのアクセスは、北海道新幹線の終点札幌駅である<sup>69)</sup>。札幌から最寄り駅である旭川駅までは、普通列車だと所要時間は約3時間、特急だと1時間半程度である。特急の本数は1日28往復と道内特急で最も多い本数を誇る。

## (4) インターチェンジ数

東川町近接のICは、旭川北ICである。このICから東川市街地まで、ルートに拠るが、距離では30kmから35km、車で約45-50分程度である<sup>70)</sup>。

## (5) 通勤時間の短さ（2018年）

該当データなし<sup>71)</sup>。

---

69) JR北海道。

70) Google Map ルート検索による。

71) 総務省「平成30年住宅・土地統計調査」における家計を主に支えるものの通勤時間の中位数。

# Glocal Profiling Report : Higashikawa Town

Masakazu Watanuki, Ph.D.  
President, Japan Global Initiative

## **Abstract**

Higashikawa Town is located in the central part of Hokkaido, Japan, blessed with beautiful natural environment and abundant tourist resources. With a population of approximately 8,600 people, the town is conveniently located, with about 13 km from the city center of Asahikawa and about 7 km from Asahikawa Airport. The eastern part of the town is a mountainous area, forming a large forest region, and a part of the town is occupied by the Daisetsuzan National Park, the largest natural park in Japan with Mount Asahidake as its main peak.

The snowmelt water from Mount Daisetsu travels underground over the years, reaching the foothills of the town. Due to this unique natural feature, Higashikawa Town is renowned as the only town in Hokkaido and rare nationwide for not having a public water supply system. Additionally, the town has declared itself a globally unparalleled “Town of Photography” and the “Photography Culture Capital,” actively promoting community development through photography. In recent years, the town has seen an increase in population due to immigrants from across the country, leading to the establishment of cafes, miscellaneous goods stores, wineries, vineyards, sake breweries, and attracting a younger generation of tourists.

Higashikawa Town is a distinctive community with a unique culture known as the “Higashikawa Style,” characterized by a genuine focus in every aspect. It boasts a high level of diversity, unusual in the domestic context in Japan, with a fundamental philosophy of “Tekiso” (appropriate density). With a forward-looking perspective for the future, the town actively promotes town development and endeavors to revitalize the region. In addition, Higashikawa Town is engaged in innovative initiatives that take advantage of the region’s distinctive climate and abundant local resources.